

【教育-2】再評価

学校施設の建替事業（榎が丘小学校）

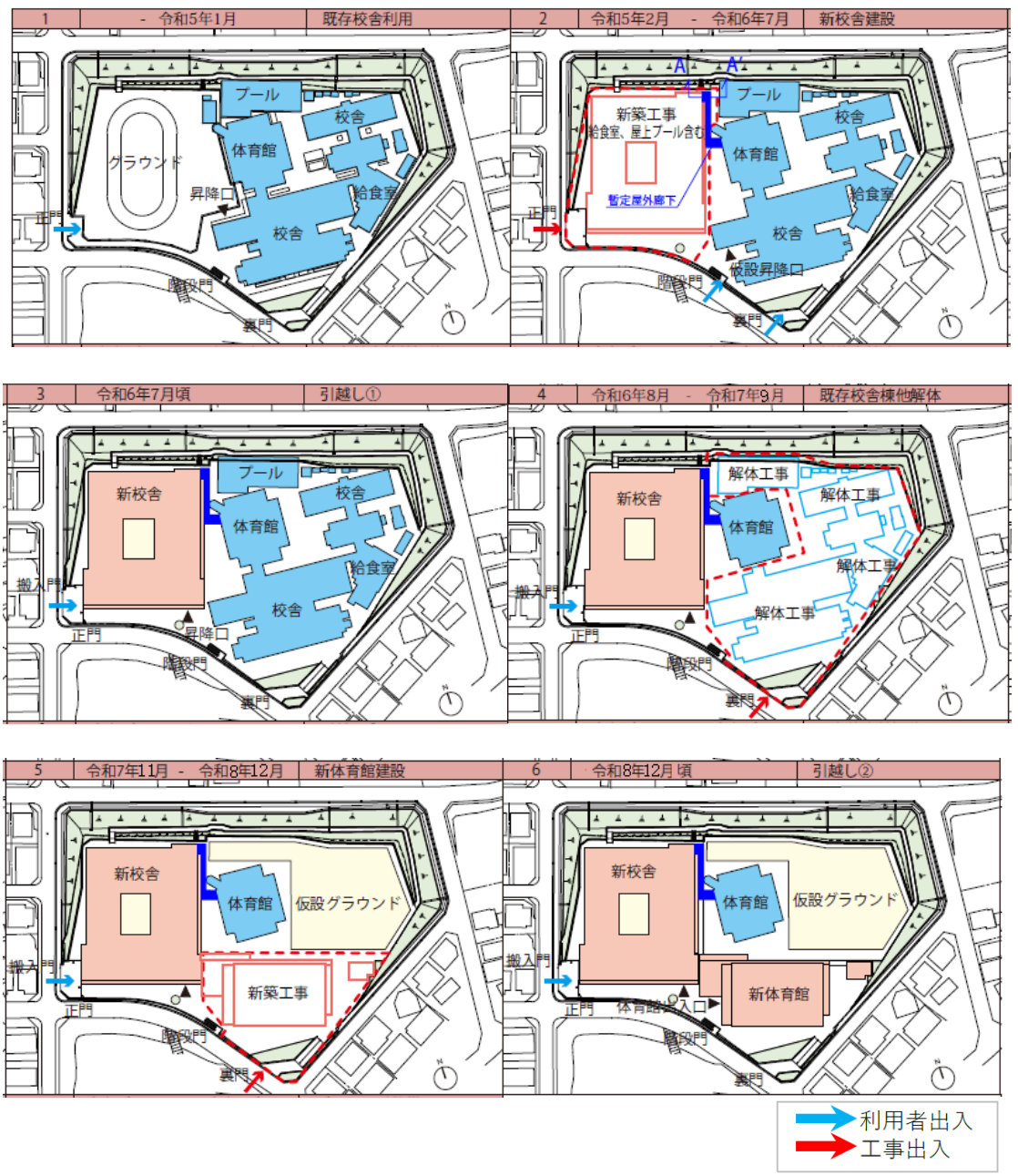
（教育委員会事務局）

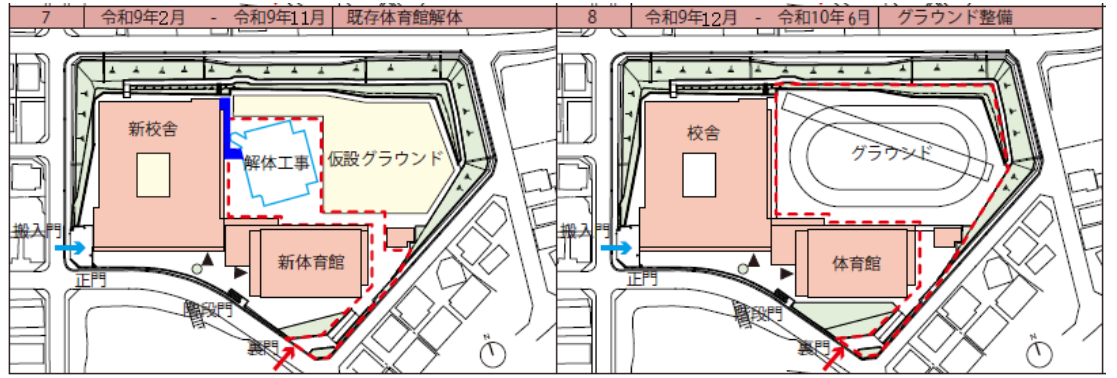
(様式4)

公共事業再評価調書(案)

番号	【教育-2】	事業担当局課	教育委員会事務局教育施設課	
事業名	学校施設の建替事業(榎が丘小学校)		採択年度	R元年
施工場所	青葉区榎が丘29番地		経過年数	5年
目的及び事業概要	1 目的 榎が丘小学校は特殊な形状・配置の学校施設で教育環境に課題があり、改修による改善が見込めないことや、施設が古く老朽化しているため、学校施設の建替えを実施します。			
	2 事業概要 【既存施設の状況(平成30年4月時点)】			
	建設年度	昭和48年(1973年)		
	最古の棟の築年数	44年		
	体育館築年数	41年		
平均築年数	42.5年			
【案内図】				
 <p>この地図の著作権は横浜市が保有します。</p>				
3 整備概要 <ul style="list-style-type: none">・供用開始：令和10年度上旬(予定)(一部供用開始：令和6年8月)・敷地面積：12,950㎡・建築面積：約3,600㎡・延床面積：約7,800㎡・構造・規模：校舎棟(給食室、屋上プール)：鉄筋コンクリート造/地上3階建 体育館棟：鉄筋コンクリート造一部木造(屋根)、鉄骨造/平屋 屋外附帯棟(倉庫等)：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造/平屋				

- 整備諸室
 - 普通教室：20CR
 - 個別支援教室：2 CR
 - 特別支援教室：1 CR
 - 特別教室：6 CR
 - その他：多目的室、職員室、体育館、プール、給食室、キッズルーム 等
- グラウンド：面積約 3,800 m²
- 解体工事：建築面積（約 2,600 m²）、延べ面積（約 6,000 m²）
鉄筋コンクリート造一部鉄骨造／4階建
- 工事工程（令和6年度以降は想定）





	事前評価(令和元年度)	再評価(令和6年度)
--	-------------	------------

事業期間	R元～R9	R元～R10
------	-------	--------

事業費	合計 (①～③)	約 34.3 億円	約 48.8 億円	
	国費	約 5.5 億円	約 10.0 億円	
	市費	約 28.8 億円	約 38.8 億円	
	内訳	①委託費等	約 2.0 億円	約 3.1 億円
		②工事費	約 28.2 億円	約 38.5 億円
		建替工事費	約 25.8 億円	約 36.3 億円
		改修費	約 0.15 億円	—
		校庭整備費	約 2.2 億円	約 2.2 億円
③解体費	約 4.1 億円	約 7.2 億円		

(1) 事業スケジュールの変更
 第1期工事着手時期が遅れ、事業スケジュールの見直しを行い、一部供用開始時期を令和5年度から令和6年度へ、全面供用開始時期を令和9年夏頃から令和10年度上半旬へ変更しました。

	事前評価時 (令和元年度)	再評価 (令和6年度)
基本設計・実施設計	R元～R3	R元～R3
新築工事、 既存校舎解体工事等	R3～R9	R3～ R10
一部供用開始	R5	R6
全面供用開始	R9夏	R10上半旬

(2) 事業費の変更等
 事業費が変更・修正した主な理由は、以下のとおりです。

項目	主な理由	内 訳
物価上昇等	工事労務単価上昇、建設資材高騰(※1)	約 8.7 億円
仕様変更	環境性能の向上等による増額	約 2.2 億円
面積増	約 200 m ² (整備水準(別紙1参照)の変更、推計増加1 学級、キッズルーム1室、防災倉庫等)	約 0.8 億円
その他	発注者指定型週休 2 日制導入(※2)	約 2.2 億円
	測量、工事監理等業務追加による委託費増	約 0.6 億円
合 計		約 14.5 億円

※1 建設物価調査会が公表している建築費指数により上昇率を算出

※2 横浜市の建築工事の実績値(工事・整備費の5%相当)から算出

※3 四捨五入により、合計と一致しない場合があります。

※4 (参考) 校舎棟建設費：約 24.7 億円 (1 m²当たり：約 380 千円)

(3) 配置計画



基本設計の中で、グラウンドと校舎の位置を入れ替えることによる近隣への影響をできるだけ少なくすること、グラウンドを広く整形にできること、仮グラウンドの設置を可能となるように工程を検討したことにより、配置を変更し、先行工区の仮使用に係る内部改修を不要とするなどしました。

また、校舎棟を L 字型から口の字型へ変更し、中庭の吹抜けや、教室と廊下の上に欄間を設けることにより、自然採光・自然換気が可能となりました。

(4) 整備諸室の変更

(単位：室)

主な室	整備前	事前評価時	再評価時 (供用時)	備考
普通教室	19	19	20 (18) ※	
個別支援教室	2	2	2 (4) ※	
特別支援教室		1	1	
多目的室	2	4	4	
特別教室	6	7	6※	
放課後キッズ ルーム	1	1	2	こ青局 所管
面積	約 6,000 m ²	約 7,600 m ²	約 7,800 m ² ※	

※ 整備教室数及び施設整備水準の改訂による特別教室の変更により、PC教室1室を普通教室へ変更

() 内は、現在の教室の使用状況(実数)を示す。(R6は普通教室2室を個別支援教室として利用)

必要諸室が増加となったことから、面積が、約200㎡増

・整備教室数の設定根拠

(供用開始時の児童・学級数推計に基づく学級数により決定)

①事前評価時に想定した教室数の設定根拠

(平成30年5月1日時点推計値)

	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
児童数	643	636	638	636	632	621	633
学級数	19	19	20	21	20	19	19

事前評価時点では、一部供用開始時のR5年度に必要となる学級数を満たす計画としていました。

※H30の児童数は事前評価時に誤りがあったため修正しています。

②整備する教室数を確定した年次(R3)での設定根拠

(令和3年5月1日時点実数・推計値)

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
児童数	643	632	627	605	611	595	602	631	610	593
学級数	19	19	20	19	20	20	20	21	21	21

最終的に整備する教室数は、設計完了時点(R3)における最新の児童・学級数の推計をもとに、一部供用開始時のR6年度に必要となる教室数から決定しています。

なお、R7の学級数に対しては、多目的室を普通教室転用により対応することを想定しています。

③最新の児童・学級数の実数と推計値による今後の見通し

(令和6年5月1日時点実数・推計値)

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
児童数	605	589	540	525	524	495	468	454	429	419
学級数	19	20	18	18	18	18	17	17	16	16

※ R3の学級編成の標準の引下げにより1学級の人数はR3からR7にかけて順次40人から35人へ移行。

学級数は、一部供用開始時(R6年度)までは、整備教室確定年次の想定に対して、実数として2減程度の変化となっています。また、R4年以降、児童・教室数は減少傾向となり、R12時点では、2程度の

		<p>余剰教室が生じる見込みですが、個別支援学級に在籍する児童は全学的に増加傾向であり、本校においてもR6は前年比2学級増加しています。そのため、個別支援学級のための教室利用が見込まれます。</p>
	上位計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市教育振興基本計画 ・横浜市公共施設等総合管理計画(令和4年度)※ ※(旧「横浜市公共建築物の再編整備の方針」(事前評価時))
	関連事業	—
事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・事業採択当時、平均築年数42年以上経過し、老朽化が進んでいたこと及び、特殊な形状・配置の学校施設で教育環境に課題があり、改修による改善が見込めず、現在の教育活動に必要な整備水準が確保されていなかったため、老朽化対策及び教育環境の改善を図る必要があります。 ・児童数は減少傾向ですが、個別支援学級は急速に増加しており、将来的には、一般学級の減少による余剰教室は、個別支援学級としての利用が見込まれます。
	事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)	<p>1 施設面</p> <p>(1) 安全・安心・安定性・快適性(教育環境の改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッテリー/クラスター型の教室配置のため、廊下にそって教室が並んでおらず、他学級との交流や教員間の連携が行いづらいことや、校舎内の移動効率が悪く校内の見回りに長時間かかるなど機能面で課題があり、施設も老朽化していたため、本事業を実施することで、児童の安全・安心及びより良い教育環境を確保することが可能です。 ・また、現在の学習指導要領に基づき、多様な能動的な学びに対応するため多目的に利用できる室を配置しています。 <p>(2) 将来用途変更への対応</p> <p>教室間の耐震壁は、レイアウト変更に対するフレキシビリティを確保するために、2～3教室に1箇所の配置として計画しています。</p> <p>(3) プール施設等の合理化</p> <p>設計当初、近隣の民間プールへの委託を検討しましたが、設計中に当該施設が閉業したため、従前とおりのプールを整備することとしました。</p> <p>2 防災面</p> <p>(1) 地域防災計画での位置づけと対応、建替え中の拠点確保等</p> <p>地域防災拠点としての機能を再整備し、体育館、グラウンド、倉庫の位置をより使い勝手に配慮した配置とすることで、地区の防災機能が強化されます。</p>

		<p>(2) 災害への対応 敷地は浸水や土砂災害の被害想定はないため、特別な措置は行っていません。</p> <p>3 地域面</p> <p>(1) 地域まちづくりの推進への配慮 地域交流室に外部からの出入口を設けるなど地域利用に配慮しました。</p> <p>(2) 目的外利用への対応 学校としてのセキュリティを確保した上で、放課後キッズクラブや体育館の利用が可能となるように、学校と出入口を別に設けるなど、学校以外の利用に配慮した計画を行いました。</p> <p>4 環境への配慮</p> <p>(1) 緑化 既存の樹木を診断を行い、可能な限り活かすことで、コスト削減と地域への配慮を図りました。</p> <p>(2) 建物における環境配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市公共建築物環境配慮基準に準拠することで、環境負荷が軽減されます。 ・中庭の吹抜け、廊下突当りの開口、教室と廊下間の欄間の設置など、共用部は自然採光や通気性に配慮しました。また、各塔屋部分に換気用サッシュを設けることで、夜間に建物内の残熱を排熱し、翌日の冷房負荷の低減を図っています <p>(校舎棟 BEI(※1)=0.60(設計時)、CASBEE 横浜Aランク:照明器具のLED化、高効率空調設備の導入、外皮(※2)の断熱化、内装等の木質化、PPA事業を見込んだ設備配置等)</p> <p>※1 BEI:建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律に基づき定められた建築物エネルギー消費性能基準で、基準建築物と比較した時の設計建物の一次エネルギー消費量の比率。横浜市の公共建築物における環境配慮基準(H26 制定)では BEI ≤ 0.7。</p> <p>※2 外皮:建物の外部と内部を隔てる境界で、窓・壁・屋根・床等</p> <p>[その他特記事項]</p>
--	--	---

事業の進捗状況	事業進捗率%	令和6年7月 校舎棟工事完了
	56.0%	
	用地取得率%	令和6年8月～ 既存校舎解体工事
	-	

	供用等の状況	
	一部（校舎棟） 供用済	
事業の課題 及び 進捗見込み	<p>【事業課題】 同一敷地内で学校運営を行いながらの工事のため、建設と解体を繰り返すローリング方式とする必要があり、教育環境への制約が長期化します。</p> <p>このため、体育館の継続利用、グラウンドの工事利用範囲を極力小さくするなどの工夫や、授業時間中の工事騒音、屋外教育活動場所の制約が生じることに対する配慮が必要となります。今回、体育館の継続利用を可能とするとともに、近隣の公園について地域の方の協力を得て屋外活動場所として利用しています。また、今後、既存校舎解体後には仮グラウンドを設置するなど、敷地内での屋外活動スペースを確保します。</p> <p>【進捗見込】 令和 7年度 体育館棟建設着手 令和 8年度 既存体育館棟解体工事 令和 9年度 校庭整備工事 令和 10年度 全面供用開始見込</p>	
その他 (コスト縮減項目等)	<p>【コスト縮減項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地建替えを行うにあたり、仮設校舎を不要とするとともに、継続的な学校運営を可能とするため建設と解体を繰り返すローリング方式としました。 (事前評価時参考) 仮設校舎:34ヶ月リース 4,285.00 m²、22CR、3階建:865,570 千円 ・既存杭の撤去は新設杭に干渉する箇所に限定し、杭撤去費用を抑えました。 ・教室間や階段部分等に耐力壁を設けた耐震壁付ラーメン構造とし、耐震壁で地震力を負担するため柱・梁断面を小さくすることができたため、躯体量を縮減することができました。 ・校舎棟を口の字型に配置し、避難に供する階段を効果的に配置する等、共用部分を縮減しました。 	
その他	<p>本事業は、令和元年度に事前評価実施済みです。</p> <p>参照 URL: https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/zaisei/fmsuishin/jigyohyoka/r01/r01-1-iinkai.html 横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針(平成 29 年5月策定) https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodatekyoiku/kyoiku/sesaku/gakko/tatekae/hoshin.html</p>	

添付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙1 整備水準 ・別紙2 パース、平面図、立面図、写真 	
対応方針 (案)	継 続	計画通り(上記計画を実施)※1
		一部見直し(上記計画を変更)※2
	【見直し内容】	
中 止		

対応方針 (案) として 理由	<p>教育環境及び地域防災拠点としての機能の改善を行います。</p> <p>事業を再評価した結果、物価上昇等による事業費の増はあるものの、事業は順調に進捗しており、事業の必要性和効果が期待できることを確認しました。</p> <p>そのため、早期の教育環境改善の実現に向けて、事業の継続は必要です。</p>
-----------------------	--

※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

整備水準・整備前・計画・後の比較

学校名： 榎が丘小学校

種別		整備前		H25整備水準(小学校19CR)			H30事前評価時		R2整備水準(小学校20CR)			整備後		H30事前評価時と整備後の増減		備考	
		CR数 (63㎡/CR)	面積 (㎡)	室名	CR数 (64㎡/CR)	面積 (㎡)	CR数 (64㎡/CR)	面積 (㎡)	室名	CR数 (64㎡/CR)	面積 (㎡)	CR数 (64㎡/CR)	面積 (㎡)	CR数 (64㎡/CR)	面積 (㎡)		
教室	1	19.0	1140	普通教室	学級数	19.0	1216	普通教室	20	1280	20	1280	1.0	64	推計の変動		
	2	2.0	120	個別支援教室	2.0	128	2.0	128	個別支援教室	学級数	2.0	128	0.0	0			
	3	0.0	0	特別支援教室	1.0	64	1.0	64	特別支援教室	1.0	64	1.0	64	0.0	0		
特別教室	4	2.0	120	理科教室	2.0	128	2.0	128	理科教室	2.0	128	2.0	128	0.0	0		
	5	2.0	120	音楽教室	2.0	128	2.0	128	音楽教室	2.0	128	2.0	128	0.0	0		
	6	2.0	120	家庭科教室	2.0	128	2.0	128	家庭科教室	2.0	128	2.0	128	0.0	0		
	7	2.0	120	図画工作教室	2.0	128	2.0	128	図画工作教室	2.0	128	2.0	128	0.0	0		
	8	2.0	120	図書室	2.0	128	2.0	128	図書室	2.0	128	2.0	128	0.0	0		
	9	1.0	60	コンピューター教室	1.0	64	1.0	64				0.0	0	-1	-64	▲水準の変更による	
	10	0.0	0	教育相談室	0.5	32	0.5	32	教育相談室・耐火書庫	0.5	32	0.5	32	0.0	0	教育相談室・教材教具	
	11	0.0	0	多目的室(水廻り学習等)	2.0	128	2.0	128	多目的室(水廻り学習等)	1.5	96	1.5	96	-0.5	-32	▲水準の変更による	
多目的室	12	1.0	60	多目的室(集会・発表等)	2.0	128	2.0	128	多目的室(集会・発表等)	2.0	128	2.0	128	0.0	0		
	13	2.0	120	多目的室(少人数指導)	2.0	128	2.0	128	多目的室(少人数指導)	2.0	128	2.0	128	0.0	0		
	14	0.0	0	多目的室(用途指定なし)	3.0	192	3.0	192	多目的室(学校指定)	2.0	128	3.0	192	0.0	0	△当初水準を維持	
管理諸室	15	0.5	32.0	校長室	0.5	32	0.5	32	校長室	0.5	32	0.5	32	0.0	0		
	16	1.9	113.0	職員室	2.0	128	2.0	128	職員室	2.5	160	2.5	160	0.5	32	水準の変更による	
	17	0.0	0.0	事務室	0.5	32	0.5	32	事務室	0.5	32	0.5	32	0.0	0		
	18	1.0	60	保健室	1.0	64	1.0	64	保健室	1.0	64	1.0	64	0.0	0		
	19	0.0	0.0	保健相談室	0.5	32	0.5	32	保健相談室・教材教具室②	0.5	32	0.5	32	0.0	0	保健相談・耐火書庫	
	20	0.6	34.0	放送・スタジオ室	0.5	32	0.5	32	放送・スタジオ室	0.5	32	0.5	32	0.0	0		
	21	0.5	29.0	会議室	1.0	64	1.0	64	会議室	1.0	64	1.0	64	0.0	0		
	22	0.3	16.0	印刷室	0.5	32	0.5	32	印刷室	0.5	32	0.5	32	0.0	0		
	23	0.6	36.0	職員更衣室	0.5	32	0.5	32	職員更衣室	0.5	32	0.5	32	0.0	0		
	24	0.6	38	技術員室・湯沸室	0.5	32	0.5	32	技術員室	0.5	32	0.5	32	0.0	0		
	25	0.0	0.0	和室	0.5	32	0.5	32	休養室	0.5	32	0.5	32	0.0	0		
	26	0.7	43.0	職員・来校者用玄関	0.5	32	0.5	32	職員・来校者用玄関	0.5	32	0.5	32	0.0	0		
	27	0.7	44.0	教材教具室	1.5	96	1.5	96	教材教具室①	1.5	96	1.5	96	0.0	0		
	28	別棟		変電室・教材教具室	1.0	64	1.0	64	変電室	1.0	64	1.0	64	0.0	0		
	29	0.1	5.0	倉庫	0.5	32	0.5	32	倉庫	0.5	32	0.5	32	0.0	0		
	30	0.3	17	資料室・耐火書庫	0.5	32	0.5	32				0.0	0	-0.5	-32	▲水準の変更による	
31	1.0	60	PTA会議室	0.5	32	0.5	32	PTA会議室	0.5	32	0.5	32	0.0	0			
32	1.0	60	地域交流室	0.5	32	0.5	32	地域交流室	0.5	32	0.5	32	0.0	0			
その他	33	0.0	0	児童更衣室	1.0	64	1.0	64	児童更衣室	1.0	64	1.0	64	0.0	0		
	34	4.6	273	昇降口	2.0	128	2.0	128	昇降口	2.0	128	2.0	128	0.0	0		
	35	1.0	60	キッズ	1.0	64	1.0	64	キッズ	1.0	64	2.0	128	1.0	64		
	36		236	給食室		350		350	給食室		350	350	350	350.0	0.0		
	37		1	EV		1基		1基	EV		1基	1基	1基	1基	1基		
	38		410	屋内運動場(アリーナ面積)		720		720	体育館(アリーナ)		720	720	720	720	720	0	
	39		適宜	プール		適宜		適宜	プール		適宜		適宜		適宜		
	40		適宜	共用部(トイレ・廊下・階段等)		適宜		適宜	共用部(トイレ・廊下・階段等)		適宜		適宜		適宜		
		約3,684				約4,878						約4,910		32			

※整備水準は「学習指導要領」や「学校施設整備指針」を参考に決定。

・・・整備前から増加

【凡例】

・・・当初計画から増加

※赤字は整備水準の変更箇所(H25→R2)

▲・・・当初計画から減少

△・・・水準と異なる部分

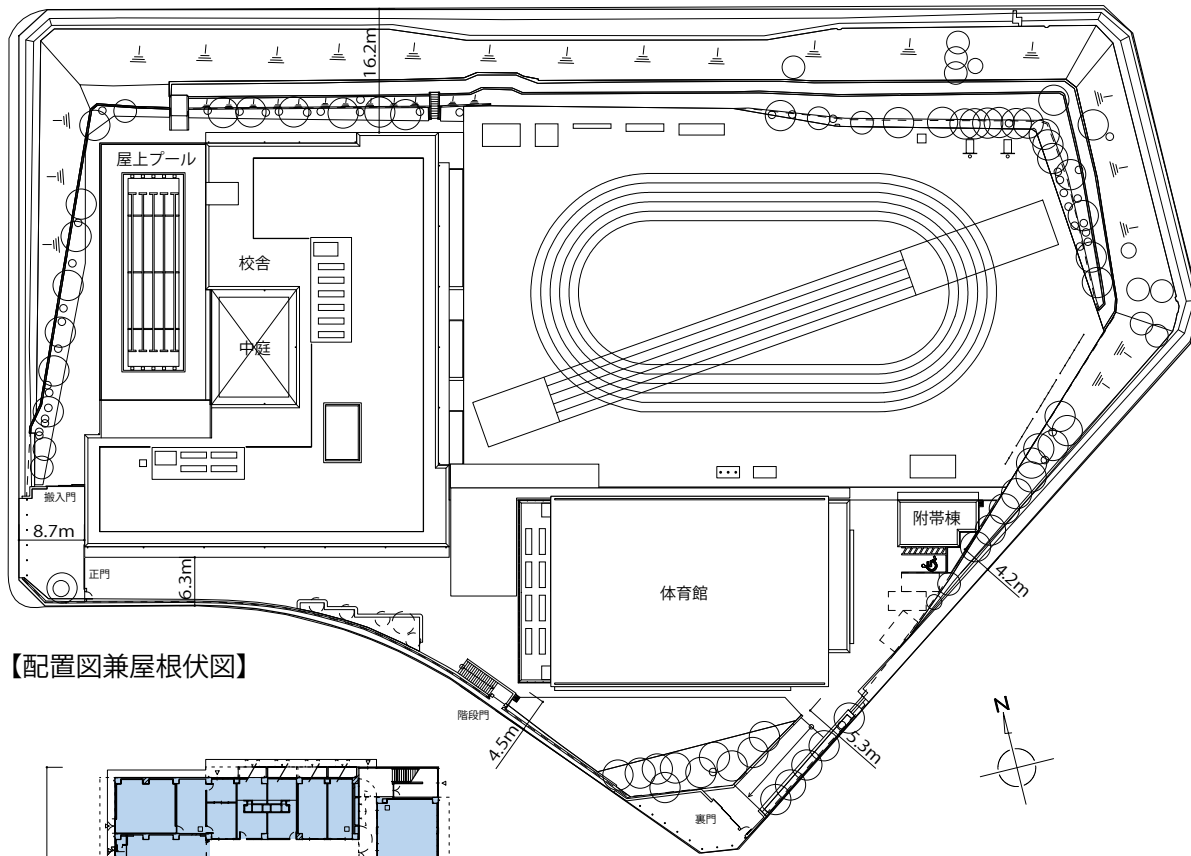
■グラウンド側からのパース



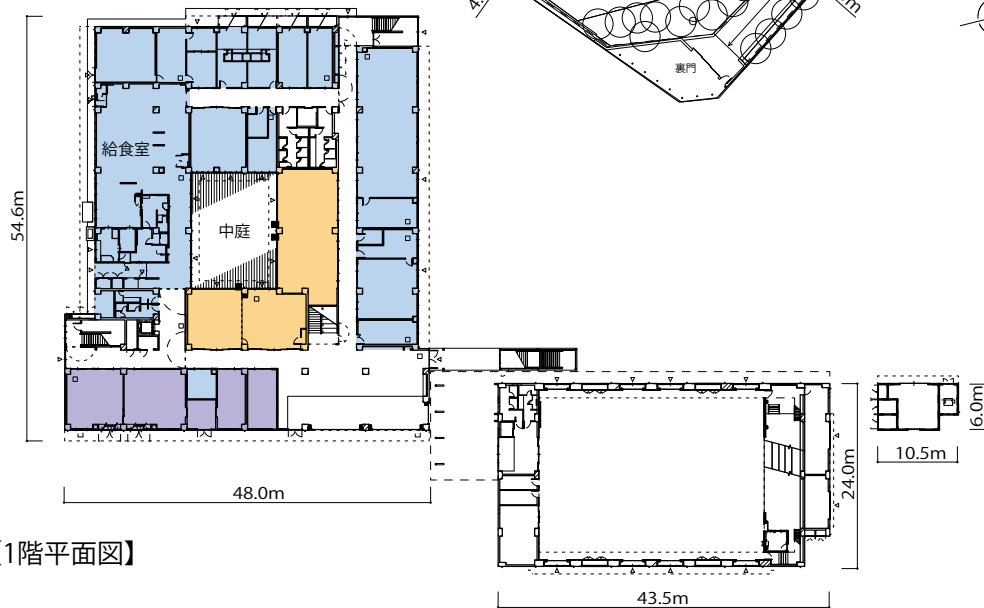
■正門側からのパース



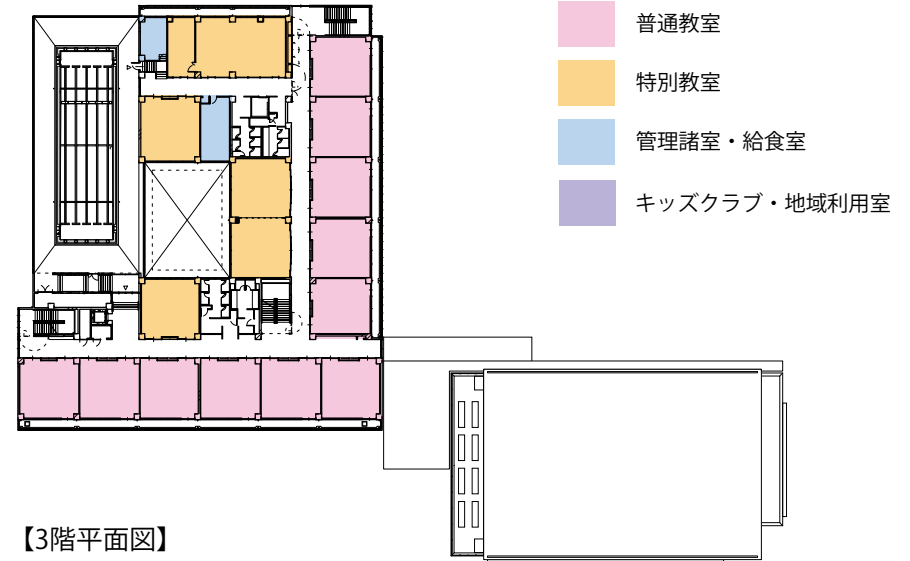
■配置図・各階平面図



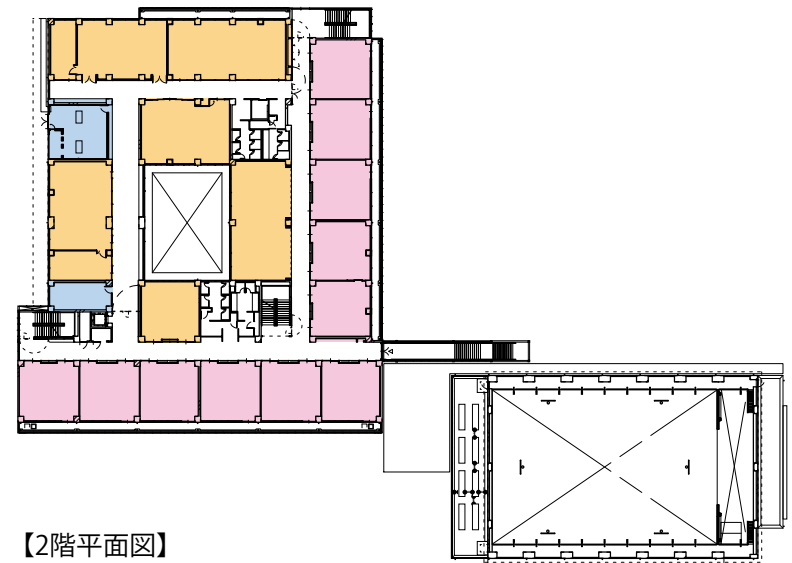
【配置図兼屋根伏図】



【1階平面図】

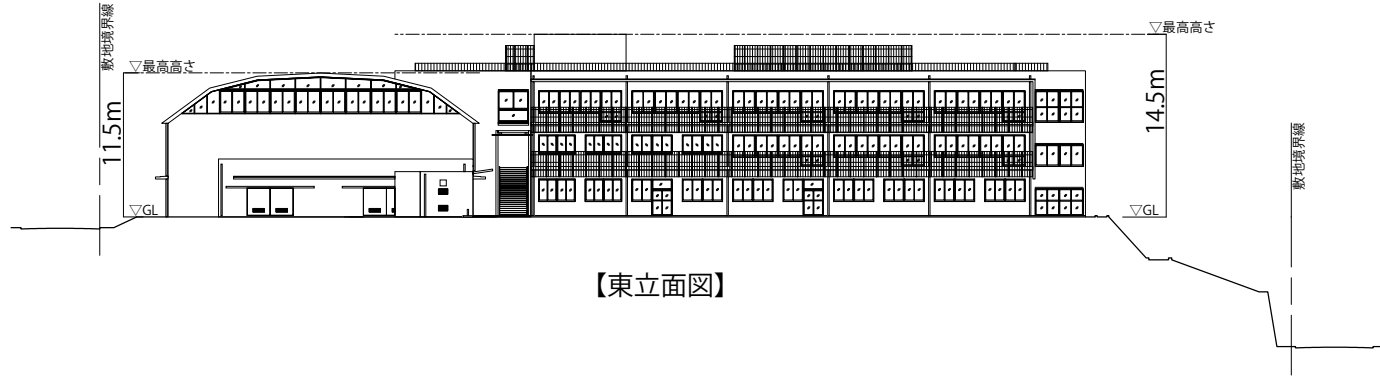


【3階平面図】

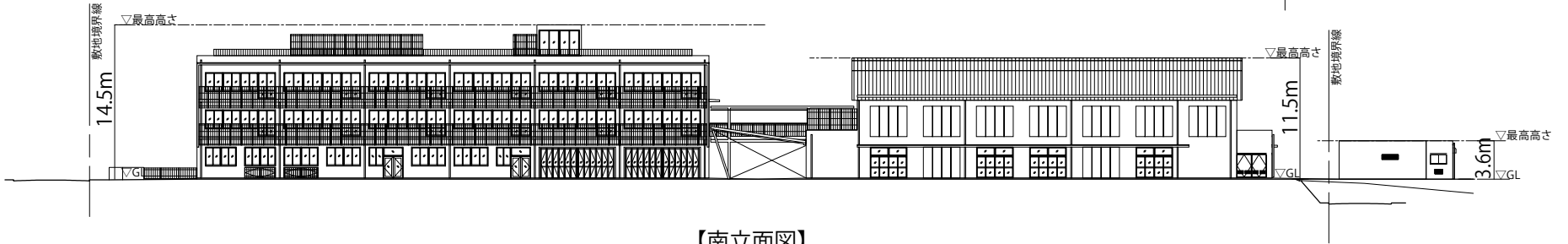


【2階平面図】

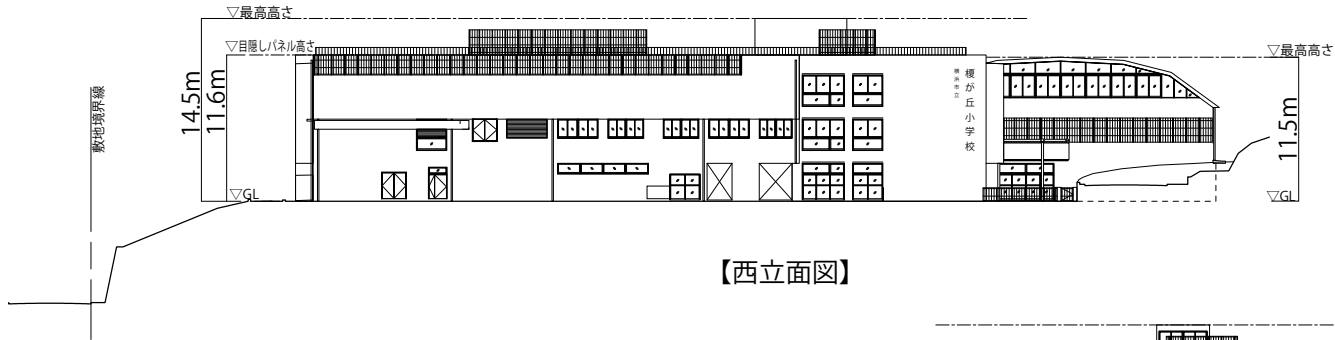
※詳細は今後の設計で変更する可能性があります。



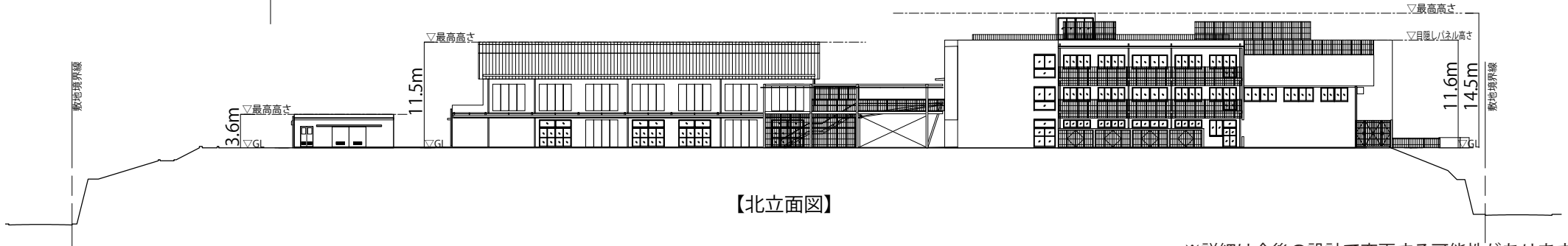
【東立面図】



【南立面図】



【西立面図】



【北立面図】

※詳細は今後の設計で変更する可能性があります。

